

研究機関名：東北大学

受付番号：	2012-1-215
研究課題名	円形脱毛症患者におけるステロイドパルス療法の効能と予後因子の検討
研究期間	西暦 2012年 9月（倫理委員会承認後）～ 2013年 9月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（カルテ、写真記録）
上記材料の採取期間	西暦 2002年 1月～ 2012年 8月
意義、目的：	円形脱毛症は外来で多く遭遇する皮膚疾患のひとつである。単発型や脱毛斑が1～2個の多発型では、自然治癒を認める場合があるが、脱毛面積が広範囲の場合、外来通院診療で行うステロイド外用やステロイド局注では病勢を抑えることができないことがある。このような、病勢を強く認める重症円形脱毛症症例に対して、ステロイドパルス療法が有効という報告がある。治療効果についての報告はあるが、予後予測因子や治療後の臨床経過について検討は乏しい。当科でも発症早期で、病勢が強い円形脱毛症患者に対してステロイドパルス療法を行っており、今回、その治療効果への影響因子、予後に対する影響因子、治療後どのような臨床経過を辿るかを明らかにするために診療録や写真記録をレトロスペクティブに検討することを計画した。この研究により、今後の円形脱毛症に対するステロイドパルス療法後の経過や予後について検討することは、臨床的に意義があるものとする。
方法：	対象はステロイドパルス療法を行った円形脱毛症患者で、カルテ、臨床写真記録を閲覧し、治療後6ヶ月、12ヶ月の時点での脱毛改善率を計算し、脱毛病型別、罹病期間別、脱毛面積別、既往歴・家族歴別、そして治療後の補助療法別の治療効果についてレトロスペクティブに検討する。また、ステロイドパルス療法後の臨床経過、最終予後についても検討する。
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学病院皮膚科 電話番号 022(717)7271